

## 和光市自動運転サービス導入事業に係る令和7年度の実証走行の中止について

## 1 背景、経緯

和光市では、少子高齢化に伴う将来的な地域公共交通の運転手不足に備え、自動運転バスによる基幹交通軸の構築を目指しており、令和5年度から段階的な実証走行を重ね、令和9年度からの自動運転レベル4の実装を目標としてきた。

令和7年度は、国土交通省の補助金等を活用しながら、実証走行を行う予定であったが、補助金の活用が困難となったことから、令和7年度の実証走行は中止する。

## 2 令和7年度事業概要

(1) 事業内容：大型EV自動運転バスを購入し、自動運転レベル2による実証走行を20日間実施する。令和9年度自動運転レベル4の認可取得に向けた検証を行う。

(2) 対象事業：大型EV自動運転バス購入	96,800千円	(補助対象①②)
自動運転システム調律業務	12,980千円	(補助対象①②)
実証実験等支援業務	15,000千円	(補助対象①②)
運行事業者交付金	4,816千円	(補助対象①②)
外環側道安全対策検討業務	2,500千円	(補助対象②)

計 132,096千円

(3) 補助額：国土交通省（補助率4/5） 100,000千円・・・①  
埼玉県（補助率2/3） 10,000千円・・・②

(4) 補助条件：①事業期間：令和8年2月27日まで

②提案内容：[運行日数] 20日（60便）

[検証項目]・大型バスにおける自動運転技術の検証

- ・自動運転走行時における立ち乗りの検証
- ・インフラ連携（信号連携含む）要否の検証

## 3 令和7年度の事業状況

令和7年度は社会実証を進め、事業化に向けた検討や社会受容性の醸成等に取り組んできた。12月定例会での関連議案の否決を受け、車両購入契約事業者の再選定及び議案の臨時議会による審議を検討したものの、事業期間内で補助条件である運行日数及び検証項目を満たした実証走行の実施は困難な状況である。

#### 4 国及び県の補助事業に対する見解

##### (1) 国土交通省

- ・ レベル4の早期実現を目指す自治体を支援するものであり、補助条件に従って提案内容の5か年計画において、令和9年度に自動運転レベル4の実装が必要
- ・ 補助条件を達成できずに、事業の取下げや事業費を減額とする場合は、成果が得られないため評価が下がる。令和8年度以降に応募しても採択されない可能性が高い

##### (2) 埼玉県

- ・ 自動運転サービス導入事業は、埼玉版スーパー・シティプロジェクトに位置付けされた事業であり、地域まちづくり計画として関連する補助事業も含めた整理が必要
- ・ 補助事業の対象事業や成果目標の変更協議を行い、変更交付申請後に交付の可否を決定する

#### 5 今後の対応

##### (1) 令和7年度

- ・ 補助事業の提案内容と同一の実証実施は困難であるため、国庫補助金は取下げ、県補助金は補助事業の変更協議を行う
- ・ 国庫補助金が活用できない状況で、市の単独費による実施は困難であるため、実証走行は中止する